

第二講 西アジアの自然環境の多様性

レポート講評

1. アジアのイメージ
2. 世界史のなかのオリエント史の位置づけ

高校時代に世界史を履修していない人が何人かいたのに驚かされた。何故なら世界史は必修の筈だから。

1. 土地の広大さ。人口の多さ。地域的な自然環境の多様さと多様な民族。
ヨーロッパに香辛料を提供。世界宗教の発祥。漢字や仏教でイメージ。
社会的、経済的後進性。秩序の欠落。
東アジアのイメージが強く、西アジアが弱く、南アジアについて語られることが少なかった。
2. 教科書でつくられた印象が強く出ている。つまり最初の文明という。
ついでギリシアやローマの文明に文化的影響を及ぼしたと評価されているが、教科書でのオリエント史に関する語彙数は少ないという興味深い指摘が見られた。

日常においてアジアが総体として意識され、イメージされることは少なく、東アジア、それも日中韓という極東三国という部分で意識され、イメージしていることが強かった。西アジアへの関心が薄く、東洋と西洋の中間で遠い地域と位置付けてしまっている。さらにはインドなどの南アジアや東南アジアへはさらに関心が低いようだ。

オリエント史についての評価は近代ヨーロッパのオリエント観そのまま、高校生が使う教科書、あるいは授業が 19～20 世紀につくられた陳腐な固定観念で縛られている為だろうと見られる。

第二講 オリエント世界の多様性

【前回レポートの講評】オリエントをアクシデントの反対語で、ヨーロッパから見て東、「陽の登る地」という意味を持ち、今日のイラクやイラン

などの中近東を指している、というステレオタイプなレポートが多かった。

【レポート課題】西アジアにおける任意の国・地域の自然環境の特徴について論じなさい。

一般的なイメージ（画一的なイメージ）

極度の乾燥

高温

砂漠

大河と灌漑

羊や駱駝の飼育

麦や棗椰子の栽培

現実には極めて多様

レバノンや小アジア西岸：地中海性気候、亜熱帯樹林、オリーブなど

アナトリア高原やイラク北部：冬期寒冷、落葉性広葉樹林、草原

イラク南部：極度の乾燥・不規則な洪水

ナイル川流域：規則的なナイルの洪水

イラン北部：降雪、湿潤、樹林

イラン東部：砂漠

タウロス山脈、ザグロス山脈、レバノン山脈などの影響